科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名<英訳>	ILASセミナー ：植物野外実習 ILAS Seminar :Experimental Practice in Field Botany			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　瀬戸口　浩彰 人間・環境学研究科 助教　阪口　翔太		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期集中	受講定員(1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 未定	教室	未定			使用言語	日本語
キーワード	生物多様性 / フィールドワーク / 植物 / 環境 / 観察と気付き						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

自然界には多種多様な植物種があります。しかし皆さんが教室で受ける座学の生物学では、シロイヌナズナのようなモデル植物における知見が植物学の全てであるように勘違いを起こしてしまうリスクがあります。この授業のテーマは、野生植物を介して「生物多様性」を知る機会を持つことです。多様性の生物学を学ぶことは、将来に様々な環境問題に向き合うことになる皆さんにとって、必ず役に立つ素養であると思います。 そして自分の眼で観察をして、厳しい環境下での植物たちの生き方について考えみて欲しいと思います。この授業では、４月から８月にかけて６回の野外実習を京都府立植物園や糺の森などで行います。野生植物や栽培植物の「分類」と「形態」、「環境への適応」、「生活との関わり」について学びます。また、京都市の絶滅危惧植物の保護増殖事業にも関わる機会を作ります。

＊８月分のレポートはお盆明けに提出するため、成績報告は１ヶ月ほど遅れます。予めご了承下さい。

[到達目標]

野生植物や栽培植物の「分類」と「形態」、「環境への適応」、「生活との関わり」について、知識と観察力を修得する。また、生物多様性や絶滅危惧種の維持についての知識を修得します。

[授業計画と内容]

１．履修者の決定：４月の前半に、昼休みを使ってガイダンスを行います。この場所と日時を書いた掲示を吉田南２号館３階にある生物実習室１の掲示板に貼ります。この時に必ず参加して下さい。この際に、実習を行う日（基本は毎月最後の土曜日とする）を決めます。

２．毎回、レポートを提出します（紙媒体で提出）。

[履修要件]

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入をしていることが必要です。入学時に大学から配られた案内、あるいは学生部の窓口で照会して、必ず加入して下さい。

未加入の人は、学生部の保険担当窓口「教育推進・学生支援部　厚生課厚生掛」
Tel： 075-753-2539　にて手続きをとってください。

ILASセミナー ：植物野外実習(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：植物野外実習(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況で５０%、レポートの点数５０%で評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
上記の図鑑は貸与しますが、この実習を機会に、自分用に購入することを勧めます。
低地での植物観察では、生物学実習用に用意したものを貸与します。

[授業外学修（予習・復習）等]

多くの履修者にとって、野外の植物を観察するという経験が初めてだと思われるので、授業を進めながら指示をします。
また、自学自習の機会として、京都府立植物園や京都市緑化協会などが一般向けに主宰する観察会や企画展を紹介しますので、興味を深めたい人は積極的に参加して下さい。レポートをまとめるにあたっては、教員やTAがサポートして、レポートの書き方などについて指導します。

[その他（オフィスアワー等）]

・オフィス・アワー：担当教員は理系ですので、ほぼ毎日出勤しています。何かありましたら研究室を訪ねてきて下さい。ただし、メール等で事前にお知らせ下さい。

・連絡事項はKULASISやPandAでお伝えします。
・京都府立植物園の入園は、総人・農・理学部の所属の場合には、学生証を提示することで無料になります（京都大学と京都府との協定に調印した学部と大学院のみが対象）。それ以外の学部生は、入園券あるいは年間パスポートを購入して入園して下さい。

[主要授業科目（学部・学科名）]